

[教材研究]

司書教諭科目「情報メディアの活用」におけるMoodleの活用

The Subject “Use of School Information Media” for the Trainee Teacher Librarian using the Moodle

野村知子[†]Tomoko Nomura[†]

†久留米大学 文学部 非常勤講師

† Faculty of Literature, Kurume Univ. Part-time Lecturer,

1. Moodle

Moodle (Modular Object-Oriented Dynamic Learning Environment) は、オーストラリアのマーチン・ドゥギアマス (Martin Dougiamas) 氏を中心として開発されたオープンソースの LMS (Learning Management System) である。LMS は、eラーニングの実施に必要な学習管理システムである。「高等教育機関における ICT の利活用に関する調査研究 (別添 1) 機関種別回答結果」[1]によれば、2015 年度の調査における Moodle のシェアは、大学 37.1% (125/337)、短期大学 32.1% (27/84)、高等専門学校 45.7% (21/46)、学部研究科 32.7% (429/1313) である。なお、久留米大学旭町キャンパスでは Moodle を、一方御井キャンパスでは受講生も多く、セキュリティを重視する観点から Course Power を利用している。Course Power のシェアは大学 4.5% (15/337)、短期大学 4.8% (4/84)、高等専門学校 0.0% (0/46)、学部研究科 4.3% (57/1313) である。

2. 「情報メディアの活用」

2.1 科目

「情報メディアの活用」は、司書教諭資格を取得するための必修科目 (2 単位) である。「学校図書館司書教諭講習規程の一部を改正する省令について (通知)」(1998 年) [2]による授業のねらい及び内容を以下に示す。

表 1 「情報メディアの活用」の授業のねらい及び内容

科目・単位数	ねらい	内容
情報メディアの活用 (2 単位)	学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る	1.高度情報社会と人間 (情報メディアの発達と変化を含む) 2.情報メディアの特性と選択 3.視聴覚メディアの活用 4.コンピュータの活用 ・教育用ソフトウェアの活用 ・データベースと情報検索 ・インターネットによる情報検索と発信 5.学校図書館メディアと著作権

3. 「情報メディアの活用」の授業

3.1 「情報メディアの活用」

福岡女子大学は、国際文理学部3・4年生を対象として司書教諭課程科目を隔年で開講しており、受講生は例年十数名である。また、同大学では講義支援システム「福岡女子大学 Moodle」(<https://moodle.fwu.ac.jp/>)を導入している。[3]「情報メディアの活用」(於・情報処理演習室)では、2015年度に Moodle の小テスト、投票、ディスカッション機能を利用しない形で導入し、2017年度において、それらを含めて本格的に利用した。本稿ではこれら Moodle の提供する機能について述べる。また、本稿中の図版は2017年度のものである。

3.2 Moodle のコース設定・編集

1) コースの設定

A) コースの新規作成

①「コースカテゴリ」を選択し「新しいコースを追加する」をクリックする。

②必須項目を入力し「変更を保存する」をクリックする。

※「可視化」の「表示・非表示」を切り替えることによりコースを学生に見せるか否かのコントロールができる。

B) コースの編集

①「編集モードの開始」をクリックする。

②コースフォーマットを選択することによりコースの表示内容が変化する。



図1 Moodle のコース設定画面

2) コースの編集

授業は、15 回分の教材を一度に公開するのではなく、各回の教材を順次公開していく方式を採用している。

3.3 2015 年度

1) 配付資料

- ① 事前にコースの概要をテキストで表示する。
- ② 授業で使用するファイル（PowerPoint）は添付しておくが、「非表示」の設定にし、授業時に「表示」に切り替えて受講生がファイルのダウンロードができるようにする。授業終了後に再度「非表示」とする。当日欠席した受講生については、本人の求めに応じて表示時間を限定してダウンロードを可能にする。

2) 課題

課題を教師用ファイル（PowerPoint）で表示し、学生は回答をファイル（Word）入力して Moodle に提出する。

3) 小テスト

設問は、多肢選択問題、記述問題、数値問題、組み合わせ問題とさまざまなタイプがある。教師は問題をシャッフルしたり、問題バンク（設問、正解・模範解答、解説の蓄積）からランダムに選択したりして複数回の受験を許可することも可能である。また、教師は、学生に対するヒント、フィードバック、正解の表示の有無（表示する場合はそのタイミング）を選択できる。

2015 年度は、授業時に問題・解答用紙を配付し、受講生は手書きで解答した。終了後、答え合わせ及び解説をして用紙を回収し、記録後、定期試験前に受講生に返却した。

4) アンケート

授業時にアンケート用紙を配付し、手書きで回答を記入する方式とした。回答を集計し、後日グラフで結果を公表した。

5) ディスカッション

特に実施しなかった。

3.4 2017 年度

1) 配付資料

2015 年度と同様に提示・配付した。参考サイト等の url を追加し、リンクを貼った。



図 2 Moodle による資料配付例

2) 課題

課題の登録は、必須事項（課題名、課題説明）、開始日時、終了日時を入力する。学生の課題提出は、ファイルによる提出以外では、テキストエディタに直接入力する形式がある。評価（「評定」）をする際に「提出をロックする」を選択し、評定とコメントの入力をする。



図 3 Moodle による課題の設定例

3) 小テスト

自動採点機能を有効にし、点数や受験回数などの情報を LMS の学習履歴情報に記録するため、記述式の解答をさせる問題ではなく、多肢選択問題（単一選択、複数選択）、穴埋め問題を採用した。



図 4 Moodle による小テストの例

4) 投票、ディスカッション

教材として参照サイト（各ベンダーによる学校図書館システム紹介ページ）を掲載した。受講生は、司書教諭の立場で各システムのページを閲覧し、内容（システムの拡張性・柔軟性・機密性、コスト、アクセシビリティ、メンテナンスの容易さ等）を比較検討し、導入するシステム（例・探鳥 TOOL 小学校向け）に投票した。受講生は、投票後に「ディスカッション」メニューで「図書館システムを選択する際の留意点」について考えを投稿し、返信し合った。



図 5 Moodle による投票・ディスカッション資料例

3.5 2015 年度と 2017 年度の相違

1) 配付資料

なし

2) 課題

Moodle への提出を 2015 年度は Word ファイルで、2017 年度はテキストエディタで行った。

3) 小テスト

知識の定着を図るため授業中に小テストを実施した。同一条件（設問、時間）で、2015 年度に紙によるテストを、2017 年度に Moodle 上でテストを実施した。ただし、Moodle 上の試験は受験可能期間を 1 週間とし、再受験を認めている。再受験は、第 1 回のテストの採点結果と解説を読んだ後に実施し、期間内であれば学外からも受験可能である。第 1 回の受験直後に第 2 回の受験をする者もあった。そのため、第 2 回の平均点は第 1 回よりも高得点であり満点の者もあった。しかしながら、Moodle では、解説をメモするという作業がないため知識の定着性について課題が残る。

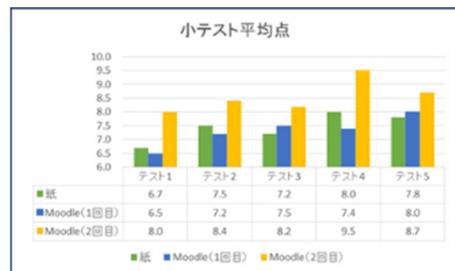


図 6 小テスト採点結果

4) 投票

2015 年度は、授業時にアンケート用紙を配付し手書きで回答を記入する方式とした。結果を集計し、グラフで公表した。2017 年度は受講生が Moodle に投票し、受講生は投票後 Moodle で結果を参照できるものとした。

参考文献

- [1] 大学 ICT 推進協議会 (AXIES) ICT 利活用調査部会「高等教育機関における ICT の利活用に関する調査研究 (別添 1) 機関種別回答結果」2015 年
- [2] 「学校図書館司書教諭講習規程の一部を改正する省令について (通知)」(平成 10 年 3 月 18 日付 文初小第 80 号)
- [3] 「福岡女子大学 Moodle 簡易マニュアル」PDF ファイル,福岡女子大学 Moodle (<https://moodle.fwu.ac.jp/>) 2017.12.20 参照
- [4] 大学 e ラーニング協議会,日本リメディアル協会監修「大学における e ラーニング活用実践事例集: 大学における学習支援への挑戦 2」ナカニシヤ出版,2016 年
- [5] 日本ムードル協会 (<https://moodlejapan.org/>) 2017.12.20 参照